

# Japan River Restoration Network News Letter

発行：日本河川・流域再生  
ネットワーク事務局

〒102-0082  
東京都千代田区一番町8番地  
一番町FSビル3階  
財団法人 リバーフロント整備センター内  
Tel: 03-6032-7121  
Fax: 03-6032-7456  
E-mail: info@a-rr.net  
URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

## 巻頭書記

新年度がスタートし一ヶ月が経過しました。  
JRRN 事務局では、更なるネットワークの拡大と、  
国内の河川・水辺再生に向けた継続的な貢献を目指  
し、平成 20 年度の活動内容を現在企画中です。

また、昨年に引き続きアジア河川・流域再生ネッ  
トワーク (ARRN) の事務局を担うことから、ARRN

の主要メンバーである中国・韓国と情報共有や人的  
交流の進め方についてやり取りを行いながら、アジ  
アの河川環境に関する情報についても本ニュースレ  
ターやホームページを通して会員皆様に発信してい  
きたいと思います。引き続き、JRRN 会員皆様の積  
極的なご協力をどうぞよろしくお願い致します。

## 活動報告

### 昨年度のJRRN活動概要 及び 平成 20 年度の活動予定

#### (1) 平成 19 年度の J R R N 活動概要

JRRN では、国際フォーラムやワークショップな  
どの行事開催、また国内外の河川・水辺再生に関す  
る情報整備と交換のためのホームページ運営など、  
河川・流域再生に関わる多様な情報・技術・経験を  
スムーズに交換できる仕組みを国内外で共有し、各  
地域に相応しい河川再生技術の発展と豊かな河川環  
境の創造に寄与することを目的として、平成 19 年度  
は表-1 の様な諸活動に取り組んできました。

また同時に、JRRN はアジア河川・流域再生ネッ  
トワーク (ARRN) の事務局も担い、表-2 に示す  
ような活動にも取り組んで参りました。

表-1 平成 19 年度の JRRN の主な活動

| 種類                   | 内容                                                                                                                           |
|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 行事<br>開催             | - 台湾・愛河ワークショップ (2007.10)<br>- 水辺流域再生国際フォーラム (2007.11)<br>- アジア太平洋水サミット (2007.12)<br>- 河川再生に関わるミニワークショップ<br>～中国の河川再生 (2008.1) |
| 情報<br>整備             | - JRRN ホームページ再構築・運営<br>- メールマガジン (週 2 回)<br>- ニュースレター発刊 (月 1 回)<br>- 年次報告書 (年 1 回)                                           |
| 組織<br>運営<br>及び<br>PR | - 国内有識者会議 (2007.7)<br>- 事務局定例会議 (20 回以上)<br>- 第 3 回 NARBO 総会 (2008.2・インドネシア)                                                 |

表－２ 平成 19 年度の ARR N 事務局運営活動

| 主な活動内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>ARR N メンバーとの意見交換</b><br>・ 日韓調整会議（2007.8・東京）<br>・ 日中調整会議（2007.8・北京）<br>・ 日中韓運営会議（2007.12・東京）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <b>技術交流・PR 活動</b><br>（国際会議・学会等での講演）<br>・ 韓国水資源学会（2007.5・韓国）<br>・ 河川再生技術交流 WS（2007.6・台湾）<br>・ 第 3 回東南アジア水フォーラム（2007.10・マレーシア）<br>（国内外関係機関との技術交流・意見交換・PR 活動）<br><b>【韓国】</b> 建設技術研究院・K-water・韓国水資源学会・東豆川市・韓国建設交通部・韓国河川協会・韓国水フォーラム・水団体総連合河川表示視察団<br><b>【中国】</b> 中国水利水電科学研究院・北京市水利規則設計研究院・武漢市水務局・上海市蘇州河改良事業団・同済大学<br><b>【その他】</b> 台湾水環境再生協会・台湾高雄市工務局・台湾水利署水利規則試験所・台湾逢甲大学・UNESCAP・イギリス河川再生センター・タイ天然資源環境省水資源局・NARBO 事務局・NARBO 参加団体<br><b>技術指針整備</b><br>・ 既存ガイドライン収集（70 種）<br>・ 一部ホームページ上での公開 |

## （２）平成 20 年度の活動予定

昨年度の活動を通しては、以下の様な課題・反省点も浮き彫りになりました。

- ・ 河川再生の定義が曖昧。（生態系の再生？ 都市河川の再生？ 自然の再生？ etc.）
- ・ 誰の為のネットワークかが不明確。
- ・ 国内外の河川環境に関する情報（技術、事例、娯楽・・・）の蓄積が不十分。
- ・ 海外に向けた情報発信が不十分。
- ・ 継続的なネットワーク運営に向けた戦略が定まっていない。 etc.

平成 20 年度は、上記の課題を克服しながら、次の様な活動を通じて国内外の河川再生に関わる情報循環の促進に寄与していきたいと思ひます。

## 【JRRNの平成 20 年度の活動概要】

- ① 河川再生に関する情報整備とホームページ運営  
河川環境・再生分野のポータルサイトとして国内外の関連情報（事例、技術、活動団体、書籍等）の蓄積の充実を更に図り、日本語・英語による国内外への発信に努めます。
- ② ニュースレター・ニュースメール配信  
JRRN の活動報告やトピック記事を取りまとめたニュースレター（月一回）、及び国内外の河川環境関連のニュースを集約したニュースメール（週二回）を継続して配信していきます。
- ③ 各種イベントの開催  
JRRN 会員や河川環境再生に関心を抱く方々の交流の場として、国内外の河川環境分野の技術や事例の普及と情報交換を目的としたフォーラムやワークショップ等を開催します。
- ④ JRRN の組織体制の強化  
JRRN の活動にご賛同頂ける会員を更に増やすため、PR 活動を行うとともに河川環境改善に取り組む関係者の方々と意見交換や交流を深めてまいります。また、ネットワーク活動を継続的に実施する為の組織としての活動戦略も定めていきます。
- ⑤ ARR N 事務局の運営  
各国 ARR N 窓口機関とアジアにおける河川環境分野の連携策やネットワーク運営に関する継続的な協議を行うとともに、ARRN としての各種イベントの企画や河川再生ガイドラインの作成、また ARR N の PR 活動などを実施していきます。

# 寄稿記事

## 目黒川の今昔(下流編) ～昭和 47 年と現在の写真比較

寄稿者：JRRN 事務局

はじめに、東京都を流れる二級河川「目黒川」で撮影された何枚かの比較写真をご紹介します。



日本橋（現：居木橋）より上流を望む－昭和 47 年撮影  
（東京都土木技術センター提供）



居木橋より上流を望む－平成 20 年 JRRN 撮影



昭和橋より上流を望む－昭和 47 年撮影  
（東京都土木技術センター提供）



昭和橋より上流を望む－平成 20 年 JRRN 撮影



田楽橋より上流を望む－昭和 47 年撮影  
（東京都土木技術センター提供）



田楽橋より上流を望む－平成 18 年 JRRN 撮影



昭和橋より下流を望む－昭和 47 年撮影  
（東京都土木技術センター提供）



昭和橋より下流を望む－平成 20 年 JRRN 撮影

現在と約 35 年前の写真を比較するだけでも、背後地の土地利用形態や川の水面の利用の仕方、また河川の水質など様々な違いを見つけることができ、都市河川の歴史的変遷を知る上で当時の写真は非常に貴重な存在と言えます。

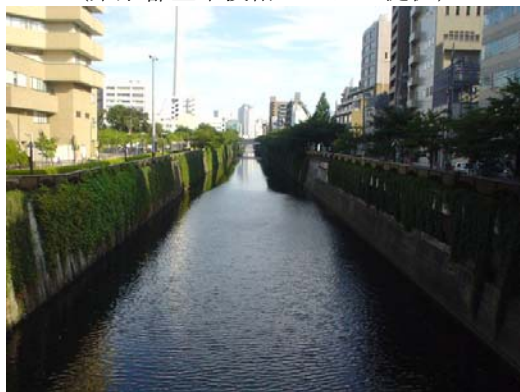
ここで簡単に目黒川について紹介します。(地図は文末参照)

東京都を流れる目黒川は、世田谷区・目黒区を東流し、品川区を流れ東京湾へと注ぐ二級河川で、河口部から船入場までの約 5 キロは河床勾配が水平に近い感潮区間となっています。現在、この船入場には目黒川流域の洪水を防ぐことを目的とした調節池と、目黒川の歴史や川に関する情報が展示されている「目黒区・川の資料館」があります。

目黒川流域は明治時代から都市化が進み、昭和初期の改修により東京湾河口部から船入場までが舟運に利用されるようになりました。川沿いには船を利用した多くの工場が造られ、またその後も流域の市街地化が進み、典型的な首都圏の都市河川の様相を呈しております。



田楽橋より下流を望むー昭和 47 年撮影  
(東京都土木技術センター提供)



田楽橋より下流を望むー平成 18 年 JRRN 撮影

目黒川は、流域の開発と宅地化により、特に高度成長期には河川の水環境が著しく悪化し、左下に示した写真に見られる様に、生活廃水がそのまま川へと流入し、水面に洗剤の泡が漂う状態がしばらく続きました。

その後、東京都をはじめとする行政機関が中心となって進められた下水道施設の導入や様々な啓発活動、また地域住民の努力などもあり、川の水質や景観は当時よりも大幅に改善されていることが写真の比較からも判ります。

しかしながら、目黒川流域には今なお合流式下水道が多く存在し、大雨の際には一部の生活廃水が目黒川へと直接流れ、これが川底へのヘドロ堆積の原因となり、洪水時には川から悪臭がするなど水環境の問題を抱えています。加えて、感潮区間については高潮による被害を防ぐための高い護岸があり、川の水面までのアクセス性に乏しいなど、地域の人々が日ごろから触れ合う川になる為には克服すべき課題も多々存在しています。

現在、目黒川では、「城南三河川清流復活事業」として、落合水再生センターで高度処理された再生水が水環境改善を目的に放流されており、良好な河川環境の再生に向けた取り組みが実施されています。また、目黒川下流部の品川区では、この春から、水質浄化を目的とした高濃度酸素溶解水による水質浄化実験も行い、花見が楽しめる水辺の再生を目指した取り組みも始まります。

今回紹介した写真を比較してみても、確実に都市を流れる川の水質や景観が改善されている様子が判ります。引き続き行政や地域住民が一体となった河川環境改善の取り組みが行われ、多くの地元民に愛される目黒川に再生されることを期待するとともに、JRRNの活動を通じて目黒川のような都市を流れる河川の再生にも貢献できればと思います。

最後に、昭和 47 年当時の貴重な目黒川の写真を快くご提供頂きました「東京都土木技術センター」(<http://doboku.metro.tokyo.jp/start/index.html>)の岩屋隆夫氏、高崎忠勝氏に謝意を表します。



目黒川流域の位置図（地図出典: Google マップ）

### 【目黒区・川の資料館 の紹介】

<http://www.a-rr.net/jp/observe/01/143.html>

「目黒区・川の資料館」は、目黒川船入場調節池上に建設された見学施設で、主に小学生を対象に、目黒川の歴史や東京都内の川の変遷に関する資料が展示されています。また、川に関する様々な資料、文献、過去の新聞記事等々、東京都を流れる川の情報が豊富に整理されています。

- 所在地: 〒153-0061 目黒区中目黒一丁目 11-18
- 開館時間: 土曜日・日曜日・祝日  
午前 9 時から午後 4 時 30 分まで
- 休館日: 毎週月曜日から金曜日
- 入場料: 無料



目黒川下流部の詳細図（地図出典: Google マップ）

# 会議・イベント等（2008年5月）

## （ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント）

■ ARRN/JRRN 主催・共催のイベントはありません。

## （その他の河川再生に関する主なイベント）

■ これからの多自然川づくり－エクスカーショ  
&シンポジウム at Moizari River

○日時：平成20年5月10日（土）

○会場：恵庭商工会議所（北海道恵庭市）

○主催：NPO 法人自然環境復元協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/644.html>

■ 第120回 河川文化を語る会『「川による癒し」の  
活動体験から』

○日時：平成20年5月20日（火）18：00～20：00

○会場：厚生会館（全国土木建築健保）

○主催：社団法人日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/596.html>

■ 第22回全国水環境保全市町村連絡協議会全国大  
会

○日時：平成20年5月16日（金）

○会場：神戸国際会議場

○主催：全国水環境保全市町村連絡協議会、神戸市

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/631.html>

■ G8 環境大臣会合記念特別シンポジウム－気候変  
動と水－

○日時：平成20年5月23日（金）13：30～17：30

○会場：神戸国際会議場メインホール

○主催：地球環境国際議員連盟、環境省 他

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/609.html>

# 冊子・ビデオ等の紹介

■ 舟運都市－水辺からの都市再生（2008.2 発刊）

・編 纂：三浦 裕二 他

・出版社名：鹿島出版会

・発行年月：2008年2月

・価 格：¥3,150(税込)

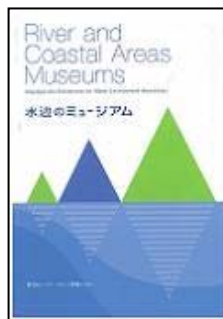


本書は、地球環境問題への対応や都市の再生、観光等の面でさらなる活用が期待されている河川や運河の舟運をテーマに、都市に水辺の生かす都市再生といった視点から事例や考え方が紹介されています。

■ 水辺のミュージアム（2007.9 発行）

・発 行：（財）リバーフロント整備センター

・価 格：無 料



全国の「水辺」にかかわる資料館・博物館の中から、特色のあるものを紹介した冊子が発行されました。一見して捉えにくい水辺の魅力や展示方法をわかりやすく紹介しています。

※ 本書をご希望される方は、「（財）リバーフロント整備センター技術普及部」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。

電話：03-3265-7121 / Fax：03-3265-7456

# 事務局からのお知らせ

JRRN は設立して 2 年目を迎えました。JRRN として今後も様々な活動を展開していきますので、まだご加入でない方は、是非 JRRN にご加入下さい。会員資格は下記の通りです。

## ■ JRRN の登録資格

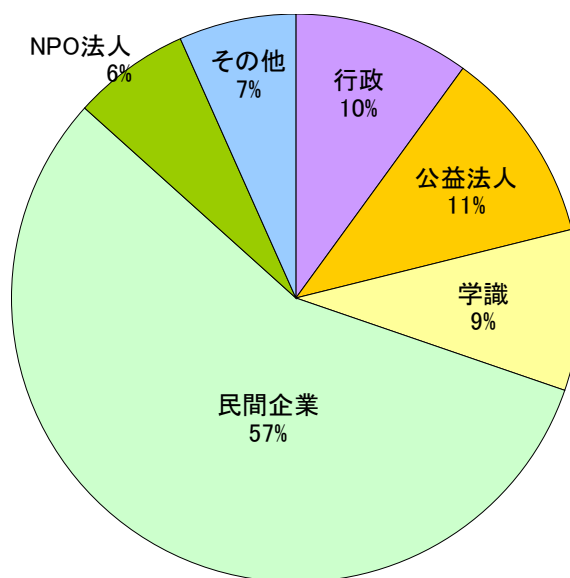
JRRN への登録は、個人、団体を問わず無料です。

行政、民間団体、NPO、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、積極的に河川環境の整備改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

## ■ 会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) ニュースレターによる国内外の河川再生情報が配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川整備事例の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信可能となります。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。



2008 年 2 月 28 日時点の個人会員構成

## ■ JRRN 事務局

(財)リバーフロント整備センター 技術普及部

### 問い合わせ先

財団法人リバーフロント整備センター 技術普及部

東京都千代田区一番町 8 番地 一番町 FS ビル

Tel: 03-3265-7121 Fax: 03-3265-7456

E-mail: [info@arr.net](mailto:info@arr.net)

URL: <http://www.arr.net/jp/>